

平成 19 年度事業報告

社団法人日本滑空協会

概要

本年度の重点施策であった若年者層の強化・育成については、5月に開催したクロスカントリークリニックに参加した若手パイロット達はその技量を伸ばし、その後の学生競技会で活躍をする等の一定の成果を残した。また、滑空記章制度改訂も有効に作用しはじめ、上位記章取得についても増加傾向にあることから、引き続き本制度の強化、発展に努めていくこととする。

1. 滑空指導者の養成(担当：指定航空従事者養成施設運営委員会)

自家用操縦士の養成一本年度は下記 13 名を養成

| 期 | 訓練所 | 修了日 | 修了者 | |
|---|-----|--------|-----|----------------|
| 1 | 関宿 | 6月6日 | 1 | 岩根由佳 |
| 2 | 関宿 | 7月2日 | 3 | 青山弘希 木村理恵 齋藤啓太 |
| 3 | 板倉 | 11月9日 | 2 | 木川欽司 中島 進 |
| 4 | 中航連 | 11月24日 | 2 | 長縄篤典 松澤昭夫 |
| 5 | 山梨 | 1月21日 | 3 | 竹岡靖弘 豊川信夫 村上俊樹 |
| 6 | 宝珠花 | 3月3日 | 2 | 簾藤篤史 丸 憲太郎 |

2. 滑空選手権の後援ならびに国際大会への選手派遣、推薦

A. 当協会後援の滑空競技会

日本滑空記章規定変更以後(9月～)から場外飛行を伴う競技会について、参加選手の資格要件として銅章以上の保有を主催団体に要請。

- a. 第2回藤倉記念カップ(2007.5.5～6 於群馬県・板倉滑空場)
 (社)日本滑空協会賞(ベストグロス賞)として盾の授与
 (社)日本滑空協会賞 小濱明彦
- b. 第25回久住山岳滑翔大会(2007.5.13～19 於大分県・久住滑空場)
 最優秀選手(基本滑翔競技)へ盾ならびに賞状授与
 最優秀選手賞 山口弥香(大阪工業大学)
- c. 第11回原田覚一郎杯大学対抗グライダー競技大会(2007.8.9～17 於埼玉県・妻沼滑空場)
 団体・個人優勝者への盾授与ならびに団体(1～3位)、個人(1～6位)への賞状授与
 (団 体) 原田覚一郎杯：日本大学Bチーム 団体準優勝：日本大学Aチーム 第3位：東海大学Aチーム
 (個 人) 最優秀選手賞：野村大地(日大) 優秀選手賞：小林 航(日大) 第3位：小寺俊之(東海)
 第4位：青山弘希(青山) 第5位：多胡遼太郎(学習院大) 第6位：本川健吾(青山)
- d. 第10回東京六大学対抗グライダー競技会(2007.8.19～26 於埼玉県・妻沼滑空場)
 団体・個人優勝者への盾ならびに賞状授与
 (団 体) 優勝：慶應義塾大学 (個 人) 最優秀選手賞：増田 壘(慶應大)
- e. 第10回全日本学生グライダー新人競技大会(2007.10.14～20 於岐阜県・木曾川滑空場)
 団体・個人優勝者への盾ならびに賞状授与
 (団 体) 優勝：慶應義塾大学 (個 人) 最優秀選手賞：松居史晃(慶應大)
- f. 第48回全日本学生グライダー競技選手権大会(2008.3.1～9 於埼玉県・妻沼滑空場)
 大会役員就任(当協会会長牧野 健) 団体・個人優勝者への盾ならびに賞状授与
 (団 体) 優勝：早稲田大学Aチーム (個 人) 最優秀選手賞：奥田徳幸(慶應大)
- g. 第47回全国七大学総合体育大会グライダー競技の部(2008.3.10～16 於千葉県・関宿滑空場)
 審判委員長就任(当協会常務理事坂井正一郎)

B. 国際競技会結果報告

LILIENTHAL GLIDE 2007(プレ世界滑空選手権 2007.7.14～27 於ドイツ・リュッセ)
 18mクラス 2位 市川 展(ASG29E) 17位 丸山 毅(Ventus 2cx)

3. 航空スポーツ安全確保ならびに普及活動

A. 飛行講習会

- a. 学連若手OBクロスカントリークリニック（2007.4.14～22 於埼玉県・妻沼滑空場）
 (財)日本学生航空連盟との共催により若手パイロットの技術向上を目的として実施。
 参加者数のべ8名 使用機体：DuoDiscus2
 教官：奥平光保氏 滝澤信三氏 中村暢宏氏 森中祐治氏
- b. クロスカントリークリニック（2007.4.28～5.3 於群馬県・板倉滑空場）
 上記A.a.飛行講習会と同様、フライト技術向上を目的に主として会員向けに実施。
 参加者数のべ10名 使用機体：DuoDiscus2
 教官：小濱明彦氏 滝澤信三氏 茂木 隆氏 森中祐治氏
- c. クロスカントリークリニック（エリア慣熟）（2007.5.4 於千葉県・関宿滑空場）
 参加者数2名
 教官：佐藤一郎氏
- e. 安全飛行大会（異常姿勢からの回復トレーニング）
 - ① 2007.11.23～24 於岡山県・新邑久滑空場
 関西エアロスポートクラブを実行委員として、ストールおよびスピンからのリカバリー操作訓練の他、座学での講義を行なった。
 参加者数18名
 教官：櫻井玲子氏
 - ② 2007.2.23～24 に埼玉県・妻沼滑空場で予定されていたが、天候不良のため延期。2008年度事業としてこれを持ち越しとした。

B. 講習会・講演会

- a. 低圧チェンバー体験（2007.7.1、2007.12.16 於茨城県・宇宙航空開発機構(JAXA)筑波宇宙センター）
 高高度で発症する低酸素症、減圧症等を減圧された空間内で体感することでフライト時での対処法を学ぶことを目的に実施。
 (社)日本グライダークラブとの共催のもと7月、12月の2回実施。参加者数：7月－8名 12月－9名
- b. 2008年世界滑空選手権出場キックオフの後援（2007.9.29 大阪 9.30 東京 於朝日新聞社各本社ビル）
 2008年8月ドイツ・リュッセで開催される世界滑空選手権に出場予定の市川 展氏、丸山 毅氏より国際レベルの競技会の最新状況等についてリポートが行なわれた。（主催：チャレンジWGC）

C. 航空安全講習会（担当：技量維持連絡会）

- a. 国土交通省航空局通達による“自家用操縦士の技量維持に係るガイドライン”に基づく講習会を本年度も開催した（全27回）。当協会主催講習会は7回、他団体主催講習会への講師派遣2回。
 講習会運営にあたり、日本航空機操縦士協会が(財)空港環境整備協会の助成金を受け、当協会他、(社)日本飛行連盟、NPO 法人 AOPA-JAPAN、全国自家用ヘリコプター協議会と連絡会を構成、隔月に連絡会々議をもち、講習会を推進、実施した。当協会推薦認定講師は34名(講師総数88名)。

| | | | | |
|------------------|-------------------------|--------------|---|---|
| 認定講師研修会 4月～6月 | 東京・大阪・仙台・札幌・熊本において計7回開催 | | | |
| 航空安全講習会 | 日 時 | 開催場所 | 受講者数 | 講師 |
| | 5・12 | 仙台 (講師派遣) | 22 | 大友宏之氏「事故の前と後」 |
| | 7・7 | 宇都宮 | 17 | 鈴木重輝氏「日本の管制空域」 児玉 敦氏「グライダーオペレーションの危機管理」 篠原治男氏「企業内グライダー活動と日々の安全対策」 |
| 10・28 | 岡山 | 10 | 佐藤眞一氏「空港周辺のトラフィック」 森崎喜弘氏「過去の事例に学ぶ」 坂井正一郎氏「幾つかの注意事項」 | |

| | | | | |
|--|-------|--------------|----|--|
| | 11・17 | 札幌 | 26 | 日口裕二氏「国内外の航空事故に学ぶ」 池田 亨氏「安全操縦の観点」 |
| | 12・1 | 三重 | 27 | 野田迪郎氏「明野での飛行について」 鈴木重輝氏「基本的な ATC マナー」 坂井正一郎氏「幾つかの注意事項」 |
| | 12・8 | 浜北 | 18 | 田中 廣氏「事件事例に学ぶ」 坂井正一郎氏「幾つかの注意点」 濱 俊夫氏「ヒヤリハットに学ぶ」 |
| | 12・8 | 東京 | 36 | 小野 淳氏「出発前の確認事項」 吉田正克氏「体験的安全飛行の考察」 中村暢宏氏「飛行中の錯覚について」 |
| | 1・26 | 大阪 (講師派遣) | 16 | 田口 昇氏「グライダーの運航について」 |
| | 2・23 | 東京 | 56 | 鐘尾みや子氏「最近の事故例解析」 櫻井玲子氏「サブ G について」 鈴木重輝氏「基本的 ATC」 |

b. 技量維持調査委員会ならびに作業部会メンバーの推薦

自家用操縦士の技量維持に関するの答申を行なうため航空局、(社)日本航空機操縦士協会を中心に技量維持調査委員会ならびに作業部会が編成された。各会のメンバーに当協会から鈴木康一理事(調査委員会)、秋山崇道理事(作業部会 途中より鈴木重輝氏に交代)を推薦、担当してもらった。

c. 自家用操縦士の技量維持に関するアンケート調査の実施

技量維持調査委員会の要請のもと、6月に会員へアンケートを送付、7月の関連団体関係者へのヒアリングに当協会会員から推薦した3名に参加してもらった。

D. 国内滑空記章登録、交付業務

a. 本年度(2007.4.1~2008.3.31)記章登録実績 (カッコ内はバッジ交付数)

A章 63件(32) B章 41件(15) C章 39件(17) 銅章 23件(15)

b. 記章制度の普及をより強化するために2007.9.1付で申請、登録手続手順の変更を主とした国内滑空記章規定の改訂を行なった。この改訂に伴い2007.10.1より新制度を開始し、登録、証明書の交付は無料、記章(バッジ)取得については任意申請とした。また各章ごとの交付申請料金を一律(1,500円)とした。

c. 各国内競技会の安全確保徹底のため、本年度より当協会主催、後援競技会参加者の技量確認指標として、参加資格要件に記章保有を設けることを推進した。

d. 当協会会員の中より推薦、承認された滑空記章試験員により本年度も各記章の認定がされた。現試験員の任期は2006.1.1~2008.12.31まで。(現試験員数86名)

本年度中(2007.4.1~2008.3.31)に申請された記章認定には以下の試験員の方々にご協力いただいた。
内海敬三氏(1) 大石敏之氏(3) 大友宏之氏(3) 大野木忍氏(11) 小川高昭氏(6) 奥平光保氏(14)
加藤隆士氏(1) 金子 稔氏(7) 小林英次氏(7) 小宮英二氏(25) 榊原飛鳥氏(28) 篠原治男氏(1)
末永里美氏(2) 中村則之氏(1) 蜷川忠三氏(2) 日口裕二氏(15) 村井一郎氏(13) 森中祐治氏(2)
横田裕介氏(1) 吉田 茂氏(11) 吉田正克氏(11) 和田捷征氏(1)

E. 航空スポーツ普及

a. 「スカイ・レジャー・ジャパン07 イン都城」に参加、出展(2007.11.10~11 於宮崎県都城市大淀川) 運航委員 鐘尾みや子氏を中心として、Red Foxによる曲技デモ飛行、スーパーデモナによるデモ飛行を企画、実施した。

b. 第13回スカイスポーツシンポジウム(2007.12.8~9 於日本大学理工学部船橋校舎 (社)日本航空宇宙学会主催) 担当: 鐘尾みや子氏

F. アクシデント

- ① ASK-23 の高圧線接触墜落事故 (2007.5.12 長野市太郎山 中腹 1名軽傷)
- ② ASK-23B ウィンチ曳航離陸中索切れ墜落事故 (2007.7.28 霞の目飛行場 1名死亡)
- ③ ASK-13 ウィンチ曳航離陸中からのハードランディング (2007.10.30 妻沼滑空場 2名負傷)
- ④ MDM-1 FOX 不時着事故 (2007.11.10 都城市大淀川河川敷 1名軽傷)

4. FAI ならびに(財)日本航空協会滑空機関連業務

A. スポーティングライセンス申請代行業務

当協会会員からの交付申請について受付、承認後、申請料を当協会に負担し、(財)日本航空協会への申請を代行。現ライセンス保有当協会会員数は224名。(本年度新規3名、更新13名、継続208名)

B. FAI 関係委員

- a. IGC 委員として当協会 牧野 健会長、CIMP 委員として引き続き嶋田和人氏が(財)日本航空協会から推薦、委嘱された。嶋田氏は CIMP 副委員長に就任、会議出席。
- b. IGC 委員会 (2008.2.29~3.1 於ローマ) は欠席、議決権を議長に委任した。
- c. FAI 国際医事委員会 (2007.9.14~16 於ウィーン) は CIMP 副委員長の嶋田氏が出席した。

C. 表彰

- a. FAI ポール・ティサンディエ・ディプロマにこれまでの滑空界への貢献を称え、高田豊信氏を推薦、2007.9.20「空の日」に(財)日本航空協会を通じて FAI より授与された。
- b. 日本記録樹立好成績者に市川 展氏ならびに梅谷堅三氏が選出され、2007.9.20「空の日」に(財)日本航空協会より表彰された。
- c. 記録樹立
日本記録(オープンクラス一般)
300km三角速度 市川 展氏 156.87km/h(2006.12.28 於オーストラリア・ナロマイン/2007.4.23 認定)
500km三角速度 市川 展氏 145.11 km/h(2007.12.7 於ナミビア・ビッテルバッサー/2008.2.25 認定)
750km三角速度 市川 展氏 137.12 km/h(2007.12.29 於オーストラリア・ナロマイン/2007.4.23 認定)
自由三角コース距離 市川 展氏 929.15 km(2007.12.7 於ナミビア・ビッテルバッサー/2008.2.25 認定)

5. 専門部会の活動実績

A. 事務局

本年度入会者数 38 名 (正会員 31 名、Jr.会員 7 名)

役員改選(任期 2007.8.28~2009.8.27) : 理事 19 名 (うち新任理事 4 名)、監事 2 名

B. JSA information 編集委員会

JSA information No277~283 を会員向けに刊行した。

C. HP 委員会

航空関係、協会関係の新情報について随時更新。申請書類等のダウンロード体制の強化を図った。

D. 指定航空従事者養成施設運営委員会

航空局による立入監査が行なわれた (2007.12.3) 活動実績については 1. 参照。

E. 技量維持連絡会(航空安全講習会)

本年度は全 5 回開催。活動実績については 3. C. 参照。

F. 国際委員会 活動実績については 4. B. 参照

G. 曲技飛行委員会 活動実績については 3. A. e. 参照

6. 助成金事業

本年度の助成金はなし

7. 本年度開催会議

総会 定期総会 全 2 回 (第 1 回 2007.6.30 第 2 回 2008.3.8)

定例理事会 定期理事会 全 2 回 (第 1 回 2007.6.30 第 2 回 2008.3.8)

常務理事会 全 5 回 (第 1 回 2007.5.23 第 2 回 2007.8.20 第 3 回 2007.9.20 第 4 回 2007.11.7 第 5 回 2007.12.19)

以上